地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH, PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/

第167号　会　報　1999年 12月 20日

目　次

第106回総会・講演会報告 1
第106回総会式次第 1
会長挨拶 2
学会風景・写真 3
大林奨励賞審査報告 5
評議委員会議事要旨 6
第204回運営委員会報告 7
EPS 運営委員会報告 8
大林奨励賞を受賞して 9
紫綬褒章報告 11
田中館記念館 11
上野裕幸会員の逝去を悼む 11
河野毅先生を偲んで 12
次期総会講演会のお知らせ 13
平成11年度大林奨励賞候補者推薦のお願い 13
助成案内 13
人事公募 14
SGEPSS Calendar 15

第106回総会・講演会報告

第106回総会は、1999年11月9日(火)から12日(金)まで東北大学のお世話で仙台市民会館において行われた講演会の3日目の午後、以下の3名の田中舘賞受賞者による記念講演と特別講演に引き続き開催された。また記念講演に先立って、福島名誉会員から1999年9月に二戸市シビックセンターに開館した田中舘愛橘記念科学館と田中舘賞にまつわる逸話の紹介があった。

田中舘賞受賞記念講演
- 羽田亨会員「宇宙空間プラズマ非線形波動の理論的研究」
- 歌田久司会員「日本列島の電気伝導度構造の研究」
- 家森俊彦会員「太陽風に対する磁気圏システム応答と磁気圏電流構造の研究」

特別講演
大家寛会員「地球そして宇宙へ」

総会は、小野運営委員による開会の辞の後、会場からの提案により井口運営委員が議長に指名された。大家大会委員長の挨拶、松本会長の挨拶に続き、以下の2名の会員への大林奨励賞の授与と審査報告が行われた。

第8号 塩川和夫会員「磁気圏と電離圏の結合過程の観測的研究」

第9号 白井仁人会員「太陽風から内部磁気圏に至るプラズマ輸送と磁力線トポロジーの研究」。

続いて大村運営委員より第204回運営委員会報告として新入会員の紹介、2年以上会費滞納者の処分、財団による研究助成の学会推薦の案内がなされた。小野運営委員よりEPS運営委員会報告と綱川運営委員より2000年合同大会およびWPGMの準備状況の

第106回総会次第

開会の辞
議長指名
大会委員長挨拶
会長挨拶
大林奨励賞授与・審査報告
報告
　第204回運営委員会，EPS運営委員会
　2000年合同大会・WPGM
議事
　シニア会員について，2001年合同大会について
次期開催地の準備状況
謝辞
閉会の辞

報告があった。星野運営委員よりシニア会員制度についての運営委員会提案と会則の改訂案が示され、賛成多数で承認された。この時、定足数223に対して、出席数239(委任状143)であった。早川運営委員より、２００１年合同大会は日程と会場を他学会と同じにするが講演受付と登録等の作業は業者委託なしにSGEPSSが独立して行うという運営委員会の案が示されたが、未だ他学会との十分な協議が出来ていないため、SGEPSSが独立してやるかどうかは、運営委員会に一任することが議決された。江尻全機会員より次々期（2000年の秋の講演会）開催地である国立極地研究所の準備状況が報告された。江尻評議員による謝辞の後、閉会した。

（第20期運営委員会）

会長挨拶

会長　松本　紘

（内容）

1. 学会を取り巻く諸情勢
2. SGEPSS分科会活動の申し出
3. 学会連合と合同大会の取り組み

1. 学会を取り巻く諸情勢

行政改革に伴い、大学および国立研究機関の独立行政法人化に向けた慌しい動きで研究者・教育関係者の周辺が騒がしくなってきていることは会員諸氏もご案内のとおりです。平成12年度からは、大学研究者のいわゆる校費の配分法が変わり、大幅に削減の方向に行くようです。これは、昔の「じっくり型研究」が困難になることを意味するでしょう。競争的研究費が主要な研究財源になり、短期決戦型の研究申請が増えることが予想されるからです。いや、もっと悪いかもしれません。現在進行中の研究の一部を取り込んだ解析接続的な研究計画申請が今以上にはびこる事が懸念されます。中間評価、外部評価など、「評価、評価」の嵐が吹けば吹くほど、この傾向は増すはずです。私自身はこの傾向には抵抗を覚えます。このような「北風政策」では研究は萎縮する方向に向かう危険性が高いからです。むしろ、学会活動、学会発表などを通した普段の研究者仲間による「専門的な」評価の積み上げで決まる成果を基礎とした評価が望ましいと考えます。そして、成果の上がったものに対しては、新たな研究費申請をしなくとも、報奨金的な研究経費が下りるようになる「太陽政策」も必要でしょう。しかし、このような研究であっても、社会の目から見た研究の価値、研究への期待と矛盾するものであっては勿論いけないことは明らかです。この意味で、学会が政府からも国民からも期待されるようなプロ集団としての力量を維持することが今後ますます重要となると思われます。

科学研究費は一種の競争的研究経費ですが、今年から文部省から日本学術振興会の方にその審査が委ねられます。これに伴って、審査員の数や審査方法も変わってゆくものと考えるのが妥当でしょう。良い方向に向かってほしいと誰しも期待していますが、まだ結果を論ずるのは早いかもしれません。現在の少人数審査員による評価システムでは、不幸にして審査員に特定分野の研究者だけが偏ってしまい、しかもその分野の研究申請に科研費が集中して「当たる」というような事態はありえます。少なくともこういった事態は避けられるようになるでしょう。しかし、学会が慎重に審査員を推挙すると同時に審査員に選ばれた会員が広く学会の各分野の優秀な研究を公平無私に見渡して判断するということも重要です。

一方、競争的研究経費は科学研究費だけでなく、いろんな省庁から、またいろんなチャンネルから得られるようにもなりつつあります。ここでも、学会の果たす役割は大きいと思います。「学問とは真実す。やはり、いろんな競争的研究経費の審査に我々の学会から審査員を送り込んでおかないといけないでしょう。そのためには、我々の学会のvisibilityがキーになります。そのためにも地球物理学分

第106回 地球電磁気・地球惑星圏学会　平成13年11月17日

第106回学会総会における記念写真

野だけに留まらず、広い学術・技術分野の研究者と学術交流を深め、かつ人間関係を樹立する努力が必要と思います。学会のoutreachがいろいろな学術分野、技術社会、経済社会、一般国民にまで伸びていることが重要です。会員各位もその意味で、SGEPSSの活動を基礎に、他流試合を行い、社会活動も活発化してくださるよう期待しています。

2. SGEPSS分科会活動の申し出

会長就任後、最初の第105回総会で、私は学会活動の活性化のために、SGEPSSの分科会活動への期待とその取り組みのお願いをいたしました。一挙に、しかも組織的、網羅的に分科会を作ることは難しく思えましたので、できるところから分科会活動を立ち上げていただくようお願いしていたのですが、今回の総会までに5つの分科会の立ち上げが準備され、運営委員会で承認されました。それらはSGEPSS分科会「宇宙天気研究会」(代表幹事：丸橋克英会員)、「波動研究会」(代表幹事：橋本弘蔵会員)、「アラスカロケット研究会」(代表幹事：岡田敏美会員)、「グローバル地磁気観測研究会」(代表幹事：湯元清文会員)および「CA研究会」(代表幹事：歌田久司会員)です。これらの研究会は、これまでにも何らかの形で研究活動を続けてこられたものですが、SGEPSSの名のもとに継続的な研究会の積み上げ、関連する他学会の研究者との交流の深化を目指して立ち上げていただくことになったものです。現在、ほかにもいくつかのSGEPSS分科会「○○研究会」の準備が進められています。学会としてこれらの研究会活動を期待したいと思います。随時、学会の運営委員会まで申し出ていただければ嬉しい限りです。それぞれの分科会研究会には連番を付けていただき、「第123回○○研究会」という風に、メンバーが回りもちで開催し、少人数でもできるだけ回数を重ねていただき実績を積み上げ、各地の他学会の研究者にも参加していただき、SGEPSSの研究活動が見えるようにしていただきたいと願っています。開催については学会からは財政的援助はできませんが、分科会活動はできるだけ、学会ニュース、学会のホームページなどを通して広報してゆきます。ご協力をお願いします。

3. 学会連合と合同大会の取り組み

この問題は、第105回総会の会長挨拶でも申し上げました。大変重要な学会の基本的問題と認識しています。地球物理連合を目指すという点は、現在のところ関連他学会の足並みはそろっていません。姿勢にも温度差があり、「緩やかな協力・連携」を維持しつつ、合同大会などをさらに積み上げようというのが、「地球物理関連学　学会長等懇談会」に出席して得ている印象であり、またそう合意されています。

合同大会については、わが学会はこれまで中心的な役割を果たし、10年間推進してまいりました。しかし回を重ねるごとに、お世話をいただくLocal 委員会（LOC）の重荷が次第に増したため、世話研究者の負担の軽減を図るため会議業者の導入がなされました。その結果、合同大会への参加費は次第に高騰しています。SGEPSSの秋の学会への参加費に比べ、合同大会はずっと高くなってしまいました。学会間の連携・協力を推進する目的で設けられている「連絡会」においていろいろ検討をいただいていますが、2001年の合同大会を引き受けようとする大学は今のところ見つかっていません。現在では特定の大学や大学群にLOCを頼むというシステムの抜本的見直しと変更が検討されているようです。会員諸氏の学会活動に大きく影響する問題ですので、運営委員会ではこの問題を真剣に検討しています。特に2001年の合同大会を開催するには、連絡会において遅くとも2000年の3月までにLOCをはじめとする合同大会の枠組みを決定しなければならないので、その問題を優先的に検討しています。

合同大会を10年間続けてきて、関連学会員との交流、学会の枠を越えた共通の問題などを議論する場としての合同大会の意義はかなり広く認識されるようになってきました。また、既存の学会の枠組みでは飽き足らない分野に興味を持つ研究者をひきつけるという長所もあるでしょう。しかし、一方では参加費が高額、SGEPSS固有のセッションがもてない、会員相互の懇談・懇親の場が減ったなどという問題点も指摘されるようになりました。春の学会では予算・決算を総会で決定するわけですから、できるだけ多くの会員に参加をしてもらうことが重要です。これらの問題点のために参加者が少なくなれば今後ゆゆしい問題です。特に、合同大会の運営を業者に大きく依存する形が進めば参加費が1万円を超え、場合によっては1万5千円にまでなる恐れも指摘されています。こうなれば、学生会員の参加に少なからず影響がでますし、同じ分野の興味を共有する専門家同志が気軽に集って、お互いに研鑽しあうという有志の会としての学会の意義を維持することが困難になる危険性があります。そこで、運営委員会としては、次のような提案を検討しています。合同大会の意義は認めるが、参加費の高騰をさけるために、合同大会に参加する各学会が同一の場所で、同一の期間に春の学会を開催し、それぞれの会員の世話（受け付け、各種案内の送付、学会会期中の固有ビ

ジネス会合など）は秋の学会と同様に、それぞれが行う。勿論、合同開催のためには、プラスアルファの参加費と共同作業は必要ですが、こうすることによって参加費を低額に戻すことができる。当然、固有セッションのプログラムはそれぞれが独自に組みますが、学会をまたがる共通のテーマについては、それぞれの学会の代表世話人が集って，協議し共通セッションを設ける。ほかの学会のセッションには基本的に無料で参加できる。アブストラクト集は各学会がそれぞれの学会の責任で作成し、他学会員の要求に応じて実費販売できるようにする。等々といったことを議論しています。勿論ここに述べたことはまだ決まったわけではありません。議論の中で出ている一部をご紹介しているだけです。具体的提案はまだ示していませんが、業者委託を減らし、各学会が同時期、同場所で開催し、各学会がきちんとそれぞれの会員の世話を見るという提案を連絡会に申し出ていますが、現在のところ我々の提案は無視されているようです。高額な参加費は学会の壁を除いた「連合」への対価として会員が担うべきであると強く主張する学会（あるいは委員個人かも知れません）が連絡会の中におられるようです。私たちはどうするのか、どう対応し、どう将来の学術の発展に寄与するのか、今が考え時でしょう。

これに関して、運営委員会の中に小WGを設けました。そこでは学会の将来を見据えて学会名の変更を含めて議論をしていただく予定です。私自身は個人的には単に地球物理学だけに絞らず、できるだけ大きな枠組み（たとえば、宇宙科学、地球科学）の中でわが学会が発展することを意識した提案が運営委員会から皆さんにできるようになればと強く願っています。

大林奨励賞審査報告

会長　松本　紘

大林奨励賞選考作業委員会　（津田 敏隆委員長、内野 修 、大志万 直人、乙藤 洋一郎、長井 嗣信、前沢 洌の各委員）からの大林奨励賞の候補者の推薦を受け、当学会の第20期第一回の評議員会において、慎重審議の結果、下記のの2名に同賞を授与することを決定し、第106回総会において授与された。津田委員長をはじめとする同委員会の委員各位のご努力に感謝いたします。

塩川 和夫 会員
「磁気圏と電離圏の結合過程の観測的研究」

塩川会員は南極におけるロケット実験や人工衛星DMSP観測から、オーロラの活動、電離層での電子密度、加速された電子のエネルギー、沿磁力線電流強度などの相互の関係について研究を行った。また、北海道で観測されたオーロラ(中低緯度オーロラ)について、全天カメラと分光測光計を用いた光学的観測を行い、同時に得られた地上での磁場観測のデータの解析から、これらのオーロラは、磁気嵐の発達している中でのサブストームと関係していることを明らかにした。また、人工衛星DMSPの観測からは、電子の強い降り込みが広いエネルギー範囲にわたって起きていることを示し、中低緯度オーロラの生成機構の解明に重要な貢献をした。

塩川会員はカナダにおけるオーロラの光学観測を通して、朝側の polar cap 領域に現れるアークが極方向へ運動する現象について研究を勧め、プラズマ対流の方向や降下電子との対応や、惑星間空間磁場の変動との関係、さらに地上での磁場変動の特性との関係について詳しく調べた。さらに、磁気圏尾部でのプラズマ運動についても研究を行い、高速の地球向きの流れが、どのように磁気圏尾部で観測されるか、また、地上や静止軌道での磁場変動とどのように関係しているかについて、わかりやすく整理した。

最近では、超高層大気イメージングシステムを開発し、熱圏から中間圏に至る大気のダイナミクスという新しい研究テーマに取り組み、国内外の学会誌に13編以上の論文を第一著者として発表し、10編以上の論文の共著者となっている。このように、塩川会員は、地球の電磁圏、磁気圏さらに大気圏に広がる分野にわたって幅広い研究を展開し、論文としてその成果を着実に発表してきており、活気ある研究活動が高く評価された。

白井 仁人 会員
「太陽風から内部磁気圏に至るプラズマ輸送と磁力線トポロジーの研究」

地球磁気圏内のプラズマ分布は、太陽風からの供給過程と磁気圏内の輸送過程に大きく依存しており、とりわけ磁力線の構造が深くかかわりあっている。白井会員は人工衛星のデータを用いて磁気圏プラズマのイオンおよび電子の分布を調べ、磁気圏磁場の構造に関し独特な角度からすぐれた解釈を与えた。

まず、「あけぼの」衛星を用いて磁気圏から電離層に降下する粒子のエネルギー分布を詳細に研究することにより、イオンのフラックスが極端に減少する特異なエネルギー領域を見出した。これに関し、磁気圏尾部から内部磁気圏に至るイオンドリフト軌道の様態がエネルギーによって切り替わることが原因であるというモデルを考えた。この考えに基づき、実際に近い電磁場モデルを仮定し、イオンドリフト軌道の数値計算を行ったところ、観測されたスペクトルが細部まで見事に再現された。

さらに、GEOTAIL 衛星のデータを用いて、磁気圏遠尾部の電子の分布を解析した。一般に磁気圏磁場のトポロジーは局所的な磁場観測からは推定するのが難しいが、白井会員は、太陽風から侵入してくる電子群の分布が磁気圏尾部の磁力線のトポロジーを解く鍵となるのではないかと考え、注意深い解析を行った。その結果、プラズマシートの境界付近における電子群の到来方向に、磁気中性点が存在することを示唆する特徴的な不連続性を発見した。この研究は、従来とは全く異なる方向から新たな証拠を与えたものである。

さらに白井会員は、これらの電子群の分布を用いて太陽風から磁気圏へのプラズマ輸送過程の研究も行った。磁気圏境界面での方向分布の連続性を調べることにより、太陽風の電子が磁気再結合した磁力線に沿って方向を徐々に回転させながら侵入してくる様相をはじめて示し、磁気圏境界面の磁場構造の研究にも大きな一石を投じている。

このように白井会員は、荷電粒子分布をもとに磁気圏の磁場構造に関して新しい見方を与え、磁力線のトポロジーの研究に有力な手段を提供した。

評議委員会議事要旨

I. 第20期 第1回 評議委員会議事要旨

日時 : 1999年6月9日 (水) 18:00 - 20:40

場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター105号室

出席者: 荒木、江尻、大家、上出、河野、國分、福西、松本

欠席者: 鶴田、本蔵　　説明者: 大村、津田

前回議事録承認

報告

1. 運営委員会報告

大村運営委員会（総務担当）より、1999年6月8日に開催された第202回運営委員会について、その議事録（案）に基づいて24項目について報告がなされた。

EPS誌、WPGM2000、学術会議研究連絡委員会、地球惑星科学連絡会、科学研究費などに質疑・討論が行われた。

議事

1. 大林奨励賞審査

大林奨励賞専攻作業委員会の津田委員長から、平成10年度大林奨励賞候補者の選考手順、経過および結果について報告があった。その後、審議を行い、2名の会員への同賞の授与を決定した。

2. 東レ科学技術賞および井上学術賞候補者推薦について

平成11年度の両賞の候補者を議論し、東レ科学技術賞には西田篤弘会員、井上学術賞には寺沢敏夫会員を推薦することとなった。

3. 会を取り巻く諸情勢の分析と学会の対応について

地球科学関連学会学会長等懇談会、合同誌EPS、WPGMの準備状況、来年の合同大会、学術会議の再編問題、科学研究費問題、学会名称と学会連合などについて意見の交換がなされた。

II. 第20期 第2回 評議委員会議事要旨

日時 : 平成11年11月10日(水)　18:30—21:00

場所 : 仙台市民会館　1階特別応接室

出席者: 荒木、江尻、大家、上出、國分、鶴田、福西、松本

欠席者: 河野、西田、本蔵　　報告者: 大村、田中

報告

1. 第204回運営委員会報告

大村運営委員会総務から前夜に7時間に及んだ第204回運営委員会の報告がなされた。

2. 長谷川・永田賞候補者推薦委員会報告

田中委員長から推薦候補者選考の経緯と結果の報告がなされた。

3. 学会活動について

会長から学会を巡る諸活動について報告がなされた。（会長挨拶参照）

4. IUGGの準備状況

議事

1. 長谷川・永田賞審査

候補者推薦委員会の田中委員長からの報告に基づき、慎重な審議が行われ、本賞の授与を決定した。

2. 田中館賞の審査について

今回は候補者の推薦がなかったため、賞の審議の仕方、考え方について評議員の中で意見交換が行われた。　　（文責　松本 紘 会長）

第204回 運営委員会議事録

［日時］1999年11月9日（火）18:45-25:00
［場所］東北大学理学部物理Ａ棟７階第１講義室
［出席］会長　松本 紘
運営委員　麻生 武彦、家森 俊彦 、井口 博夫、歌田 久司、大村 善治、小野 高幸、品川 裕之、田中 良和、津田 敏隆、綱川 秀夫、早川 基、星野 真弘、山崎 俊嗣
運営委員補佐　笹井 洋一、湯元清文、横山由紀子
［欠席］岩上 直幹 運営委員

1. ＥＰＳ誌運営委員会報告

9月24日にEPS誌運営委員会　電子化を見学
10月6日 運営委員会　WEB公開
10月8日 科研費補助金　学術定期刊行物公募要領説明会
１０月２３日　科研費申請書類作成打ち合わせ、SGEPSSのEPS運営委員で内容を吟味してから会長の承認を得て申請する。

2. 新入会員承認・退会者確認

＜新入会員＞
✓高島 健　（名古屋大学）
✓長谷川 洋　（宇宙科学研究所・学生）
✓高村 尚範　（GEOTEC）
✓北村 保夫　（東北工業大学）
✓下舞 豊志　（名古屋大学）
✓大塚 雄一　（名古屋大学）
✓安藤 晃　（東北大学）

＜退会者＞
河野 毅　（理化学研究所）（逝去退会）
内海 通弘　（九州大学）
GIRMAY Haile S.
金 光浩（Chonbuk National University）（逝去退会）

3. 2年以上会費滞納者の処分について

97名の滞納者の内、支払う意思の見られない者および退会希望者をチェックした。最後通告を全滞納者に送り、チェックした人は次回の運営委員会で退会とする。

4. シニア会員の提案について

65歳以上の会員は約70名おり、EPSを配らず会費3000円とした場合、収入減が9000×70＝63万円となるが、予算的に吸収可能である。会則の変更を総会で打診する。

5. 田中館愛橘記念科学館について

1999年9月記念科学館の開館にあたって、祝電を送り、二戸市市長から礼状が届いた。記念講演に先立って福島名誉会員から記念館の紹介をする。記念講演会の司会は、評議員から選出する。特別講演会の司会は、麻生運営委員が行う。

6. 国際学術交流事業について

Lee, Youn Soo氏に、渡航費と学会参加の滞在費として10万円を交付する。

7. 学術賞・研究助成の学会推薦について

山田科学財団の研究援助候補者推薦の総務締切を2000年1月31日とする。

8. 長谷川・永田賞選考委員会報告

受賞候補者2名の選考結果が報告された。

9. 大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員について

大志万直人（委員長）、西田泰典、横山由紀子、向井利典、岡野章一、荻野竜樹　の6名の会員によって作業委員会が組織された。

10. 第４回地球物理関連学会会長等懇談会報告

IUGG組織委員会に、渡部、歌田、上出、福西、松本の5名の会員を推薦した。合同大会の企画について明確な方針は出ていない。

11. ２０００年合同大会・WPGMについて

84コマ数のセッションの申し込みがあった。会場数は65コマしかない。合同大会、WPGMの両方に参加費を支払う。コマ数が少なくなったので、WPGMにも参加を求める。総会で綱川委員が報告する。

12. ２００１年合同大会について

業者まかせにして、登録費が高くなっているのが問題である。具体的に1万円～1万5千円にした時に、どこまでできるか検討する。2001年合同大会についてSGEPSSの立場を明確にする必要がある。総会で早川委員が説明、会員から意見をつのる。

13. 惑星科学会との協力体制について

星野（世話人）、小野、山崎、歌田、津田の5名の運営委員でワーキンググループを組織し学会名も含めて検討する。　（大村総務担当運営委員）

ＥＰＳ関連報告

1. EPS運営委員会

9月24日テラパブにて電子出版化への取り組み状況の視察を行った。

10月6日に開かれた運営委員会にて次の問題が議論され、合意を得た。

1) EPSのWEB公開について、11月にはフルテキスト公開を行う準備を整える。無料公開の年限は当面Vol.52までとしておく。
2) Vol.50-51について、途上国をはじめとする研究者に無償にて配布する事業を行う。学会補助金の主な使途をこれにあてる。2000年度までは、購読者を拡大する事業の一環として取り組む予定で、候補者リストのとりまとめをおこなう。
3) EPS誌が全面的に電子ジャーナルのみのスタイルが取れるかどうかは、科研費の問題、図書館の対応の問題、購読料徴収の方法の問題などと関連しており、直ちには実施できそうにない。

2. 科研費補助金・学術定期刊行物公募要領等説明会

日本学術振興会主催による説明会が、10月8日（代々木オリンピック記念センター）に開催され、概数にて350-400団体の出席があった。説明内容の骨子は

1) 出版助成についても、競争的研究資金としての位置づけを明確にする。従って審査も競争的に行う。
2) 自然科学系の雑誌は　特定欧文誌及び欧文誌の２つのカテゴリーのみ適用し、和文誌への補助は無くなる。
3) 少額（100万円以下）の申請は認めない。
4) 欧文誌は外国人を含むレフェリー制の実施を義務づける。
5) 英文校閲費、外国人レフェリーに対する郵送費を優遇する。
6) 申請は複数年（最長4年）にわたって行い、継続については複数年次の科研費と同様に内諾を出す。各年次毎に報告と計画調書提出を義務づける。
7) 電子出版物は補助の対象とはしない。

特に特定総合欧文誌については、

1) レフェリー制に関して規約による明文化を必要とする。
2) 参加学会の会費徴収率が90%以上であること。
3) 海外購読数が発行部数の30%以上あるいは500部以上であること。
4) 申請時に掲載論文の海外学術雑誌での引用件数、impact factor等も評価される。

3. 10月23日、科研費申請書類作成に関して、EPS運営委員会、編集長、テラパブによる打ち合わせを行った。

4. その他

WEBによるEPSフルテキストの公開準備が整い、11月15日よりVol.50についてEPS誌ホームページよりアクセス可能となる。またJGGのコンテンツについても公開される。（小野 EPS担当運営委員）

シニア会員制度

シニア会員制度を発足することが仙台での総会で決まりました。このシニア会員制度はここ数年継続審議されていたものですが、賛否両論あり足踏み状態でした。しかし最近特にシニア会員制度を望む声が多くなってきたこと、また財政的にもシニア会員制度を支えることが出来るなどの理由により，運営委員会・評議委員会での議論を受けて総会で審議され、来年度から発足することになりました。シニア制度は、当該年度の初めに65歳以上で10年以上本学会の会員であった方を対象とし、本人の申請により、シニア制度の正会員になれます。会費は、年額3,000円としますが、学会誌（EPS）については配布されません。会報や名簿の配布などに関しては、通常の正会員と同じ扱いです。この制度に伴う学会規約の改訂については、総会で改訂を委任された運営委員会で検討した結果、第2章会員規約の箇所を次のようにする予定です（改訂箇所のみ会員名簿58ページ参照）。

第２章　会員

第７条　会員は次の会費を納入しなければならない。

１．正会員は年額１２，０００円，但し正会員中、（１）学生の身分のあるもので所定の手続きを経たものは年額６，０００円とする、（２）当該年度の初めに６５歳以上で１０年以上の会員の経歴があるもので所定の手続きを経たものは年額３，０００円とする。

尚、シニア制度会員の手続きには、申請書を学会事務センター、又は
http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/senior.html
より入手し、2月末日までに学会事務センターに提出してください。　（星野 運営委員）

大林奨励賞を受賞して

第８号「磁気圏と電離圏の結合過程の観測的研究」

名古屋大学太陽地球環境研究所　塩川和夫

この度は伝統ある地球電磁気・地球惑星圏学会より大林奨励賞をいただき、まことに光栄に存じています。推薦してくださった方々、これまでご指導くださった方々に心より感謝いたします。私が多感な学生時代を過ごし、また福西浩先生のご指導のもとでこの分野の研究を始めた仙台でこの賞を受賞したことを、非常に感慨深く感じています。仙台を離れてからすでに１０年近い日がたってしまいました。

福西先生のもとで研究を始めたときは、南極ロケットやＤＭＳＰ衛星のオーロラ粒子データを使って、磁気圏・電離圏結合過程を調べていました。磁気圏の粒子には有限の密度があり、また磁場が電離圏に行くほど強くなるためにほとんどのオーロラ粒子がミラー力ではね返されます。従って磁力線方向に電場をかけても有限の電流しか流せない、という電気伝導度が存在するわけですが、この研究で観測的にわかったことは、この電気伝導度が小さいほど粒子を加速する電場が大きくなる、という事でした。粒子を加速する沿磁力線電場がどうしてできるか、というのはオーロラ物理の中の大問題ですが、少なくともシステムとしては、電流を「一生懸命」流すように電場を作っている、ということでした。

東北大学を卒業してから、１９９０年に現在の名古屋大学太陽地球環境研究所へ移りました。このときはＳＴＥＰ５カ年計画の始まりの年で、新しい研究室の田中義人先生、湯元清文先生に求められていたのは、オーロラ観測をするための光学機器を作ることでした。最初の年に西野正徳先生と北極海のスピッツベルゲン島で１ヶ月間観測を行いましたが、もともと朝型の私は夜の観測はとても大変で、いかにして光学機器を自動化して夜寝れるようにするか、というのが現在に至るまでのテーマになっています。この自動化した機器によってＳＴＥＰ期間中に得られた大きな成果は、１つは北海道で５回の低緯度オーロラ観測に成功したこと、もう１つはカナダ北極圏での長期観測から、極冠域朝側で数分周期で極方向に繰り返し動くオーロラを見いだした事でした。後者の発見には、東京大学の林幹治先生の紹介で自動観測とともに導入された「コマ取りビデオ」による早送り映像（１晩のデータを数分でチェックできる）が大きく貢献しました。また前者の低緯度オーロラと同時に観測されたＤＭＳＰ粒子データを見たところ、磁気緯度６０度以下のサブオーロラ帯に、広いエネルギー幅にわたって大量の電子が降ってきており、内部磁気圏に何か新しい粒子加熱・加速源を考える必要があることがわかりました。この発見には、東北大時代に大量の衛星データを見ていた経験が非常に役に立ちました。

ＳＴＥＰ期間が終わってから、上出洋介先生の紹介で、ドイツのＭａｘ-Planck研究所のＤｒ．Baumjohannのところに１年間滞在する機会を得ました。それまではずっと電離圏の衛星データ解析やオーロラ観測を行っていたので、磁気圏衛星のデータを見てみよう、というのが滞在の趣旨でした。ここでデータを見ていて持った大きな疑問は、サブストームに伴って磁気圏尾部で観測される地球向きのイオンの高速流が「どうやって止まるか？」という事でした。これは単に私がプラズマ物理の知識がなかったために起きた疑問で、地球に近くなればなるほど、磁気圧、プラズマ圧も大きくなるので、その圧力によって止まるのです。しかし面白かったのは、止まるところでは東向きの慣性電流が流れ、止まる点がdipole型の磁場とtail-likeな磁場との明瞭な境界になることでした。これは面白い、と思って当時研究所にいた先生方にこの説を説いて回り、最後に所長のHaerendel先生のところで話したところ、先生は、この東向き電流がサブストームのcurrent wedgeの原因になりうる事を指摘されました。こうしてできた一連の論文が、サブストームオンセットにおける高速流のbraking modelで、その後の研究でサブストーム開始時におけるいくつかの観測事実をうまく説明できることがわかってきました。

ドイツから帰国してからは、冷却ＣＣＤカメラを用いた新たな光学観測機器を開発しています。こうして一連の研究の流れを振り返ってみると、私は周囲の環境・人に非常に恵まれていたし運もよかった、という思いでいっぱいです。上記に挙げた研究はこれからもっと発展させるアイデアがたくさんありますが、形にしていくには時間との闘いになっています。これからのこの分野の発展に寄与していく責務がある、と強く感じていますが、「個々の独創的な研究が、結局はその分野の将来の発展を担う」という考えで、これからも研究を続けていこうと考えております。これからもよろしくご指導のほどをお願いいたします。

大林奨励賞受賞によせて

「太陽風から内部磁気圏に至るプラズマ輸送と磁力線トポロジーの研究」

名古屋大学太陽地球環境研究所　白井仁人

今回、「太陽風から内部磁気圏に至るプラズマ輸送と磁力線トポロジーの研究」に対し、大林奨励賞を頂き、とても感激しています。大学院学生時代の不安定で苦しかった日々を思い出すと、今こうして名古屋大学太陽地球環境研究所で研究でき、しかも、大林賞まで頂いているのは夢のようで、本当にあきらめずにここまでやってきて良かったと感じます。この受賞をバネに、更に面白い研究成果をあげられるよう、邁進したいと思います。

ここで、少し、受賞の対象となった研究内容の一部を紹介させて頂きたいと思います。地球の磁気圏で磁力線のつなぎかえが起こっている直接的な証拠を見つけたい。これは、ジオテイル衛星データを解析する前に持っていた、大きな期待でした。私は、polar rainと呼ばれる沿磁力線電子のふるまいを詳しく解析することによって、磁力線つなぎかえの証拠を提出し、磁力線のトポロジー（開いているか閉じているか）を明らかにしようと考えました。まず初めに行ったのは、磁気圏尾部のプラズマシート境界での電子のふるまいの解析です。そこから、尾部で磁力線のつなぎかえが起きている決定的な証拠と考えられるデータを提示することに成功し、つなぎかえが起きている位置を推定しました。次に行ったのは、磁気圏境界での電子のふるまいから、磁気圏境界付近の磁力線のトポロジーを明らかにすることです。この研究で、磁気圏境界が部分的に開いたり閉じたりしており、それが時々刻々と変わっていくことを示しました。更に、その後、南向きＩＭＦ時に、通常の昼側磁気圏境界での磁力線つなぎかえのモデルでは説明できない例が幾つかあることを発見し、それらを、南向きＩＭＦ時にシース・ローブ境界で磁力線つなぎかえが起こっているとするモデルで説明しました。こうして、ジオテイル衛星のデータから、様々なタイプの磁力線つなぎかえが磁気圏で起きていることを示したわけです。

さて、次に、若手奨励賞ということですので、今後の研究についての抱負を述べたいと思います。今までは、主に磁気圏構造に関する研究を行ってきたわけですが、今後は、磁気圏のダイナミクスに関する研究も含めて行っていこうと考えています。今、

関心があるのは、何がサブストームの大きさを決めているのかという問題です。サブストーム（地磁気変化）は、太陽風データからの単純な線形予測では合わないことが知られています。これは、蓄積されたエネルギーがそのままサブストームのエネルギーとなるのではなく、それがまだ残っているのに、エネルギー解放（サブストーム）が止まることを意味しています。なぜ止まるのでしょうか。非線形電気回路のモデルがありますが、うまく合わない点が幾つかあります。今、この問題に対する新たな答えを求め、暗中模索しているところです。

最後になりましたが、名古屋大学大学院時代に指導を続けて下さった宇宙科学研究所・前澤洌教授、共同研究者として議論をして頂いた同研究所・向井利典教授、故人となられた山本達人教授、そして、研究活動に関しアドバイスを頂いた名古屋大学太陽地球環境研究所所長・上出洋介教授に、ここで改めてお礼を申し上げます。また、共同研究者として、そして、先輩として、友人として、研究だけでなく人生に関する問題も含め様々な面でアドバイスをして下さった、東京工業大学・藤本正樹さん、宇宙科学研究所時代に公私に渡り、励ましや助言をして下さった、福井県立大学・中村匡さんと宇宙科学研究所・篠原育さんに、特に感謝の意を表し、この文章を終わりたいと思います。

大家 寛会員 紫綬褒章を受章

本学会第17期会長の東北大学教授・大家　寛会員には、宇宙空間プラズマ物理学研究の分野において、地球周辺、太陽系、及び銀河系におけるプラズマとその活動としてのプラズマ波動や電波放射に関し、実験と理論を通じ、世界に先駆ける顕著な研究成果をあげるとともに、惑星探査実施計画や太陽地球系エネルギー国際協同研究プロジェクトなどを主査及び代表者として主導し、関連する学問分野において国内国際両学界の発展に多大な貢献をされたとして、このたびの秋の褒章で、学術・文化分野を対象とした紫綬褒章を受章されました。学会といたしましては、まことに欣快の至りであり、心よりお祝い申し上げます。

（麻生会報担当運営委員）

「田中舘愛橘記念科学館」落成

前回の会報に報告してあります「田中舘愛橘記念科学館」は予定通り本年9月18日に落成式を迎えた二戸市シビックセンターの3階に開館しました。落成式に際して各方面から寄せられた祝電が紹介された時には、本学会松本会長から二戸市市長宛に届けられていた祝電が真っ先に紹介されました。「田中舘愛橘記念科学館」の所在場所と交通案内、電話・電信連絡先とホームページを示しておきます。

〒028-6103　岩手市二戸市　石切所　字荷渡　55
二戸市シビックセンター　内
Tel:0195-25-5411　　Fax:0195-23-3548
ホームページ：
http://www.tanakadate-msm.ninohe.iwate.jp
交通案内：JR東北本線二戸駅下車、徒歩15分、タクシー3分；八戸自動車道一戸インターより10分
休館日：祝日の翌日・年末年始、月曜日（祝日の場合は翌日）
開館時間：9：00～17：00
備考：二戸市シビックセンターの1階は地域情報センターとホール（21時まで開館）、2階は福田繁雄（二戸市福岡中・福岡高出身）デザイン館（9-17時）で、1―2階は月曜日にも開館

（福島 直 名誉会員）

上野裕幸会員の逝去を悼む

上野裕幸名誉教授（元太陽地球環境研究所太陽圏部門）は、去る平成11年6月26日心不全のために逝去されました。享年68才。

同名誉教授は昭和29年3月名古屋大学理学部物理学科を卒業後、同35年1月同学部助手、同47年3月理学部附属宇宙線望遠鏡研究施設助教授に就任、平成4年9月に太陽地球環境研究所太陽圏部門の教授となり、平成6年3月、停年により退職されました。名古屋大学に37年間在職され、その間理学部物理学科の物理学実験や講義を担当すると共に、理学部宇宙線望遠鏡研究施設や太陽地球環境研究所に於いて学部学生や大学院生の研究指導をされました。

同名誉教授は、宇宙線の検出に不可欠なプラスチックシンチレータの開発をされました。プラスチックシンチレータを低価格で製造し、宇宙線の検出器の大型化を実現して、統計精度の高い宇宙線の連続観測を可能にしたことで、学会に貢献されました。宇宙には微弱な磁場があり、遥か彼方で作られた宇宙の放射線、宇宙線は磁場の中を長い旅をして地球に降り注いでいます。この

在りし日の上野裕幸名誉教授

宇宙磁場のため、電荷を持った宇宙線はその飛来する起源が定かでなく、等方的に太陽系に降り注いでいると考えられています。しかし逆にこの特徴を利用して、宇宙線の飛来方向を精度よく測れば、太陽系の大規模磁場構造が明らかにできます。

同名誉教授は、自ら開発したプラスチックシンチレータを使い、面積36m^2の大型観測装置を、昭和43年に乗鞍宇宙線観測所に、昭和45年には名大キャンパス内に、また昭和53年には岐阜県坂下町のJR中央線旧トンネルの中に設置し、20年以上に及ぶ宇宙線の長期計測を実施されました。特に坂下観測装置は氏自らその結果に強い関心をお持ちになり、解析をされました。その結果、宇宙線の強度に0.05%というごくわずかの量の、飛来方向による強弱があることが明らかになりました。これはひとえに同名誉教授の装置開発によるものです。このことにより、太陽系の中に、宇宙線が流出してゆく個所と、流れ込んで来る個所の存在することが発見されました。

ここに同名誉教授の功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

（村木 綏会員）

河野 毅先生を偲んで

河野 毅 先生、

前略、宗像（信州大理）です。

このメールが天国の先生に届くことを祈ります。そちらでも相変わらず飲んでおられるのでしょうね？

6月に先生の訃報に接し、その後しばらくは呆然として何も手につきませんでした。余りにも突然で早過ぎるご逝去を現実のものとして受け入れるには、まだまだ長い時間が必要のようです。4月に病院でお会いしたときは、あんなにお元気だったのに…。

理研のオフィスで、ペットの魚に餌を与えておられた先生のお姿が、まだ今でも鮮やかに目に浮かびます。小生が先生と親しくお付き合いさせて頂くようになったのは、当時名古屋大学にいた小生を理研（理化学研究所）へ呼んで頂いて以来で、もうかれこれ13年以上になります。それまで地上観測しか知らなかった小生にとって、理研で取り組んだ衛星による宇宙線観測の仕事は、新鮮で大変興味深いものでした。また、先生の「まっすぐ」でそれでいて「あたたか」なお人柄は、われわれ「若者」を強く惹きつけました。こうしたお人柄は、良くわからないことを「わからない」と明言する「実験物理屋」としての先生の生き方に根ざしたもので、とかく複雑な解析に盲目的に走りがちな若い世代にとって貴重なものでした。

一貫して宇宙線粒子の衛星観測に心血を注がれ、同時に地上連続観測の重要性にも深い理解を示された先生は、両者を同時に視野に入れて研究に取り組むことのできる、数少ない貴重な研究者の一人でした。昨年はチベット高原に大面積の中性子計を設置され、太陽活動極大期にむけた太陽中性子観測を開始された矢先でした。世界最高の計数率を誇るこの観測も、期せずして先生が我々に残された貴重な遺産の一つとなってしまいました。

先生が繰り返し述懐しておられたのは、日本が高エネルギー（MeV/n～GeV/n）の粒子観測では今だ「後進国」である、という事実でした。宇宙線起源や太陽風によるモジュレーション効果の観測的研究では米国に大きく水をあけられ、もはや日本には米国の後追い研究しか残されていないと、嘆く向きもあります。しかし、同時に先生は、これらの研究分野が未だ本質的理解からほど遠いことも良く指摘しておられました。

例えばモジュレーション効果の研究では、「最大の現象」ともいえる銀河宇宙線強度の11年周期変動の起源が何であるのか、未だにはっきりしていません。少なくとも先生を「わかった」と言わせる研究結果は報告されていません。こうした現状認識が、先生を更に研究へと駆り立てていった原動力であったと理解しています。

最愛のご家族と多くの仕事を残しての突然のご逝去は、誰よりも先生にとって一番の心残りだったことと思います。しかし、残された我々が、先生の御遺志を継いで「夢」に少しでも近づくよう努力しますので、どうかお心安らかにおやすみ下さい。

「河野塾」門下生を代表し、ここに哀悼の意を捧げます。

合掌

（宗像 会員）

次回総会講演会お知らせ

2000年合同大会は、6月25日(日)～6月28日(水)に、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されます。合同大会の案内、講演申込み、宿泊申込み等の情報については現在作成中であり未完成ではありますが、

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

をご覧下さい。

2000年合同大会のセッションの申し込みは10月に修了し、九大LOCプログラム委員会でセッション編成が行われ、当学会に関連するセッションは、近々中に上記Webに公表される予定です。予稿集は、1999年大会と同様に、Web上で合同大会の参加者以外にも無料で公開される予定です。プログラムの詳細を載せた印刷物とCD-ROM版の予稿集は、登録者には無料、希望者には有料で以下のスケジュールで配布される予定です。

２月末	予稿締め切り
３月末	プログラム編成締め切り
４月末	予稿原稿ホームページで公開
連休明け	CD-ROM版の予稿集出来上がり
５月末	CD-ROM版の予稿集発送

但し、ダイジェスト版内容相当のテキストファイルは各学会へ3月末頃に送付されるので、各学会で会報等に掲載され予定です。また、合同大会に参加者されない会員が新聞紙大プログラムのみを必要とした場合には、当学会を通して4月半ばまでに九大LOCへ必要部数を申請し、当学会の負担で希望者に郵送されることになっています。

平成11年度大林奨励賞の候補者推薦のお願い

大林奨励賞候補者推薦作業委員会

平成11年度大林奨励賞につきまして、下記により会員からの候補者推薦をお願いいたします。

1. 候補者の対象：下記の大林奨励賞内規第1条に該当する本学会若手会員（原則として平成11年4月1日現在で35才以下とする）

＜大林奨励賞内規第1条＞

本学会に大林奨励賞を設け、以下(1)(2)項に相当する会員を表彰し、その研究を奨励する。

(1) 本学会若手会員の中、地球電磁気学、超高層物理学、及び地球惑星圏科学において、独創的な成果を出し、さらに将来における発展が充分期待できる研究を推進している者。

(2) この場合、若手会員とは当該年度初めに、原則として35才以下の会員をいう。

2. 推薦者：本学会会員(及び大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員)
3. 推薦締切期日：平成12年2月25日(金)必着
4. 推薦手続き：以下の(1)から(8)の項目を記載した推薦書を1部送付(郵送)してください。
   (1) 推薦者氏名(自署・印)
   (2) 候補者氏名、生年月日
   (3) 候補者所属機関・部局・職
   (4) 学位論文名
   (5) 学位取得年
   (6) 審査対象論文名(3編以内、コピー各1部添付)
   (7) 審査対象論文に対する評価(それぞれの論文について400字以内)
   (8) 候補者の研究が学会、研究分野に果たす貢献、及び候補者の研究の将来性(400字以内)
5. 推薦書送付先：

〒611-0011 宇治市五ケ庄
京都大学 防災研究所 大志万 直人
e-mail g53032@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp
もしくは、osman@rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp
TEL 0774-38-4202 (直通) FAX 0774-38-4190

6. 大林奨励賞推薦作業委員会委員名簿：

大志万直人(委員長)
g53032@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp
岡野 章一 okano@pparc.geophys.tohoku.ac.jp
荻野 竜樹 ogino@stelab.nagoya-u.ac.jp
西田 泰典 nishida@ares.sci.hokudai.ac.jp
向井 利典 mukai@stp.isas.ac.jp
横山 由紀子 yokoyama@tono.jnc.go.jp

研究助成金案内

山田科学振興財団（2000年度研究援助）

自然科学の基礎的研究に対して援助。実用指向研究は対象外。援助額は1件当たり100～500万円。本学会の推薦枠2件。援助金の使途は自由（ただし給与以外）。使用期間は2年間。

選考に当たり特に配慮される点

（１）萌芽的研究
（２）大学に新研究室を創設して間もない場合
（３）学際性の豊かな研究
（４）国際協力研究

財団での締め切りが2000年3月末のため、本学会での締め切りは2000年1月末。

※要綱などは運営委員会総務に請求して下さい。

人事公募

●神戸大学 内海域機能教育研究センター

1　職名および人員：助教授または講師　1名

2　教育研究分野：環境科学

内海域の海洋・地球科学の教育と研究を、同分野の教官と共同して行ってくれる人を希望します。

3　応募期限：平成12年1月31日（月）必着

4　着任時期：決定、事務手続き終了後なるべく早い時期

5　応募提出書類：1）履歴書、2）業績リスト（査読のある学術雑誌に掲載された原著論文、著書、その他に分類して作成）、3）主要研究論文の別刷りまたはコピー(5編程度)、4）これまでの研究内容の概要と今後の研究・教育の抱負（2000字程度）、5）推薦書、または応募者に関する意見を求めることのできる方2名の氏名・連絡先、6）その他参考になる事項

6　応募書類提出先、問い合わせ先：

(1)応募書類提出先

〒656-2401　兵庫県津名郡淡路町岩屋2746

神戸大学 内海域機能教育研究センター

川井浩史　宛

（書類には「応募書類」と朱書すること）

電話 0799-72-2374 / FAX 0799-72-2950

(2)内容に関する問い合わせ先

環境科学教育研究分野　教授　兵頭政幸

（ 電話 078-803-5734／

E-mail: mhyodo@kobe-u.ac.jp)

7　その他：選考の過程で応募者本人に直接面接により業績の説明などを求めることがあることをご承知おきください。

[参考]内海域機能教育研究センター専任教官と主たる研究テーマ

生命動態分野（海産光合成生物の生物学）

教授 川井浩史 助教授 村上明男 助手 神谷充伸

環境科学分野（海洋地球科学）

教授 兵頭政幸（古地磁気・古環境学）

助教授 本人事

●千葉大学大学院自然科学研究科

募集人員: 助手１名、人工システム科学専攻　電子・光システム講座 波動情報システム分野

専門分野: プラズマ・電波物理工学、電磁気計測、電磁界理論、信号解析・処理など電気電子工学の基礎に関連する分野

応募資格: 博士の学位を有するか平成12年3月取得見込みの方（３０才未満の方が望ましい）

提出書類: 履歴書、研究業績リスト、論文別刷り、研究計画書、教育に対する抱負

応募締切: 平成12年 2月29日(火) 必着

提出先及び問い合わせ先:

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町１－３３

千葉大学大学院 自然科学研究科　島倉　信

Tel (043) 290-3310　Fax (043) 290-3355

e-mail　shin@cute.te.chiba-u.ac.jp

●名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：助手　１名

所属部門：太陽圏環境部門（勤務地：　東山分室）

研究分野：太陽圏環境部門では、太陽宇宙線・銀河宇宙線、太陽風の加速機構と伝播の研究を行っています。今回人事公募する研究プロジェクトグループでは、太陽圏環境に大きな影響を与えている高エネルギー宇宙線の生成、加速、伝播機構の解明、及び類似の高エネルギー天体現象の研究を行っています。また、C14やナイトレイトによる太陽活動変遷の解明も行っています。今回の公募では、冬の乗鞍、世界の高山、砂漠、極域等での研究観測を積極的に進めてくださる方を希望しています。また、共同利用研究所としての任務を十分に理解されていることも必要です。

着任時期：平成12年4月1日以降の、できるだけ早い時期

提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書及び自薦の場合は本人について意見を述べられる方２人の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は２人の方からの推薦書。

資　　格：修士号または博士号をお持ちの方。

公募締切：平成12年 2月14 日（月）

選　　考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同研究所運営協議会の意見を求めて、教授会において決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

宛先、問合せ先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原３－１３

名古屋大学太陽地球環境研究所

所長 上出 洋介

電話：0533-89-5183　Fax：0533-89-0409

E-mail：kamide@stelab.nagoya-u.ac.jp

当該部門の状況等についての問合せ：

〒464-8601　名古屋市千種区不老町

名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室

太陽圏環境部門教授　　村木　綏

電話：052-789-4314　Fax：052-789- 4313

E-mail： muraki@stelab.nagoya-u.ac.jp

SGEPSS Calendar

[1999年]

12月13日～17日：AGU Fall Meeting　San Francisco Calif, U.S.A.

[2000年]

2月23日～24日：Second International Symposium on Environmental Research in the Arctic and Fifth Ny-Aalesund Scientific Seminar　極地研究所

5月29日～6月2日：Workshop on Waves in Dusty Solar and Space Plasmas　Belgium

5月30日～6月3日：AGU Spring Meeting　Washington D.C., U.S.A.

6月25日～28日：地球惑星科学関連学会合同大会　国立オリンピック記念青少年センター

6月27日～30日：2000 Western Pacific Geophysics Meeting　Tokyo, Japan

7月16日～23日：33rd COSPAR Scientific Assembly　Warsaw, Poland

10月2日～6日：The First S-RAMP Conference　Sapporo, Japan

11月20日～23日：第108回総会・講演会　板橋文化会館・公民館

12月15日～19日：AGU Fall Meeting　San Francisco Calif., U.S.A.

[2001年]

7月下旬：International EISCAT Workshop　極地研究所（予定）

8月2日～4日：AP-RASC'01 2001年アジア太平洋電波科学会議　中央大学，東京

8月18日～30日：IAGA-IASPEI Joint Scientific Assembly　Hanoi, Vietnam

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

＜地球電磁気・地球惑星圏学会＞

会長　松本 紘

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3805　FAX:0774-31-8463　e-mail: matsumot@kurasc.kyoto-u.ac.jp

総務　大村 善治

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3811　FAX:0774-31-8463　e-mail: omura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

庶務　麻生 武彦(会報担当)

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10 国立極地研究所 北極圏環境研究センター

TEL:03-3962-4756　FAX:03-3962-5701　e-mail: aso@nipr.ac.jp

運営委員会

〒113東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務(入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務(庶務、窓口、渉外)　03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。
会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

地球惑星科学関連学会
連絡会ニュース

No. 19

（1999年12月）

記事：

・地球惑星科学関連学会２０００年合同大会のお知らせ
2000年合同大会九州大学LOC

・地球惑星科学関連学会連絡会第18回会合議事録

地球惑星科学関連学会2000年合同大会のお知らせ

2000年合同大会九州大学LOC

会期：２０００年６月２５日（日）－２８日（水）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

各種登録開始・締切日

● 講演登録
登録開始：２０００年１月１２日
最終締切：２０００年３月３日午後５時

● 参加登録
登録開始：２０００年１月１２日
最終締切：２０００年４月１４日午後５時

● 青少年総合センターへの宿泊登録
登録開始：２０００年２月１日
最終締切：２０００年４月１４日午後５時

上記の各種登録は下記の合同大会ホームページから行なっていただきます．

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

どうしても電子投稿・登録の手段が確保できない方は，下記にご連絡下さい．

●地球惑星科学関連学会2000年合同大会 組織委員会
〒812－8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻内
E-mail: loc2000-question@denji102.geo.kyushu-u.ac.jp
Fax.092-642-2685

目次

§１ 合同大会案内サマリー
§２ セッション案内
§３ 個人情報登録，支払登録，参加登録，講演登録，宿泊登録
§４ 投稿費および参加費
§５ 青少年総合センターへの宿泊
§６ 大会組織委員会からのお知らせ

§１ 合同大会案内サマリー

下記のURLに2000年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています．

****

合同大会ホームページ
http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

****

詳しくは上記のホームページをご覧下さい．情報は随時更新しますので，参加者は是非、時々ご覧いただくようお願い致します．

§１．１ 各種の登録（§３参照）

以下の登録はすべて上記ホームページから行なって下さい．

１）個人情報登録
２）支払登録
３）参加登録
４）予稿集原稿登録
５）宿泊登録

１）～３）は参加者全員に必須です．２)、３）を行なうためには，前もって１）が必要です．ただし，昨年度登録済の方は再度行う必要はありません．講演申し込みをされる方は１）～３）に加えて４）予稿集原稿登録を行なってください．共著の場合は，共著者についても１）が必要ですのでご注意ください．

会場の青少年総合センターへの宿泊を希望される方は，１）～３）に加えて，５）宿泊登録（§５）を行なってください．

＊当日発表される方も参加登録が必要です．昨年は参加登録をされずに，会場で直接発表される演者が多数いましたので、ぜひ事前登録されることをお勧めします．

§１．２ 住所変更

プログラムおよび予稿集CD-ROMは，事前参加登録者のみに５月末頃に発送される予定です．転勤・卒業等で住所変更が生じた方は，合同大会ホームページ

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

上で，４月３０日までに住所変更手続きを行なってください．

§１．３ 各種登録締切日および費用

●予稿集原稿登録 （§４．１参照）
締切：３月３日（金）午後５時
投稿費（１件につき）：１，０００～５，０００円
図の追加料金：１，０００円

●参加登録 （§４．２参照）
締切：４月１４日（金）午後５時
参加費：一般 ６，０００円，学生 ３，０００円
●宿泊登録（§５参照）
締切：４月１４日（金）午後５時
（但し，定員を超えた場合にはこの前に締め切られます.）
Ａコース（合同大会のみ参加される方用）
６月２５日からの３泊４日固定スケジュールで
宿泊費（一括）： ８，５００ ～１６，０００円
Ｂコース（合同大会と WPGM の両方に参加される方用）
６月２５日からの５泊６日固定スケジュールで
宿泊費（一括）：１３，６６０ ～２３，８００円

§１．４ 保育希望の方へ

合同大会開催期間中に、1-6 歳児の託児サービス(利用時間に応じて実費負担)をご希望の方は以下のアドレスまで，電子メールでご連絡ください．上記以外にも，0 歳児のいらっしゃる方，就学児童をお連れの方なども別途ご相談に応じます。保育室についての質問なども承りますので，下記までご連絡ください．

2000 年合同大会保育室実行委員会
幹事:海洋科学技術センター
海底下深部構造フロンティア 木戸ゆかり
〒237-0061 横須賀市夏島町 2-15
E-mail:kidoy@jamstec.go.jp

§２ セッション案内

講演要旨の投稿は，１～２月中に合同大会ホームページ（§３参照）上で行なってください．最終締切りは３月３日（金）です．暗くならないためスライドが使用できないセッション会場がありますので，講演申込みの時ご注意下さい．電子投稿に関する質問は下記で受け付けます：(土日・祝日を除く)

●地球惑星科学関連学会 2000 年合同大会 登録事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田２丁目４番９号
サンケイビル本館７階 株式会社ジェイコム内
E-mail: earth@jtbcom.co.jp
Fax: 06-6456-4105

どうしても電子投稿の手段が確保できない方は下記にご連絡下さい．

●地球惑星科学関連学会 2000 年合同大会 組織委員会
〒812－8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻内
E-mail: loc2000-question@denji102.geo.kyushu-u.ac.jp
Fax.092-642-2685

§２．１ セッション一覧

それぞれのセッションについての問い合わせは，「合同大会ホームページ」に書かれている各セッションの連絡先へお願いします．上記ホームページに置かれているセッション一覧リストを以下に示します．

セッション記号:〈和文短縮名〉（連絡先学会）セッション申込者氏名

Aa:〈地球史〉（指定しない）高野 雅夫
Ab:〈地球内部物性・深部構造〉（指定しない）井上 徹
Ac:〈放射性廃棄物地層処分〉（指定しない）吉田 英一
Ad:〈地学教育〉（指定しない）根本 泰雄
Ae:〈データの嵐〉（指定しない）林 祥介
Af:〈衝突〉（指定しない）三浦 保範
Ag:〈地震関連電磁気現象〉（指定しない）長尾 年恭
Ah:〈対流〉（指定しない）中島 健介
Ai:〈地震総合フロンティア研究〉（指定しない）長尾 年恭

Ca:〈バクテリアバイオマーカー〉（日本地球化学会）鈴木 徳行
Cb:〈地球表層炭素循環〉（日本地球化学会）川幡 穂高

Da:〈地殻変動〉（日本測地学会）田部井 隆雄
Db:〈測地技術〉（日本測地学会）花田 英夫
Dc:〈測地理論〉（日本測地学会）花田 英夫

Ea:〈磁気圏・電離圏〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）品川 裕之
Eb:〈電離圏・熱圏・中間圏〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）石井 守
Ec:〈古地磁気・岩石磁気〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）小玉 一人
Ed:〈対流圏・成層圏〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）村山 泰啓
Ee:〈宇宙プラズマ〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）家森 俊彦
Eg:〈太陽圏〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）小島 正宜
Eh:〈地球内部電磁気〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）歌田 久司
Ei:〈磁気圏構造とダイナミクス〉（地球電磁気・ 地球惑星圏学会）家森 俊彦

Ga:〈変形微細構造・物性〉（日本地質学会）金川 久一
Gb:〈古気候・古海洋〉（日本地質学会）多田 隆治
Gc:〈地質一般〉（日本地質学会）天野 一男

Ka:〈マントルプロセス〉（日本岩石鉱物鉱床学会）小畑 正明
Kb:〈オフィオライト〉（日本岩石鉱物鉱床学会）荒井 章司

Ma:〈地惑物質科学〉（日本鉱物学会）藤野 清志
Mb:〈鉱物物理化学〉（日本鉱物学会）赤松 直
Mc:〈生命・水・鉱物相互作用〉（日本鉱物学会）赤井 純治

Pa:〈天体核物理と太陽系科学〉（日本惑星科学会）寺沢 敏夫
Pb:〈惑星物質科学〉（日本惑星科学会）永原 裕子
Pc:〈惑星科学〉（日本惑星科学会）倉本 圭
Pd:〈金星探査の科学〉（日本惑星科学会）今村 剛

Pe:〈木星型惑星〉(日本惑星科学会) 吉田 敬
Pf:〈リング・ディスク系〉(日本惑星科学会) 吉田 敬

Qa:〈第四紀〉(日本第四紀学会) 鈴木 毅彦

Sa:〈地震発生の物理〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sb:〈強震動/災害〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sc:〈地震諸現象/地震一般〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sd:〈海半球観測研究の進展〉(日本地震学会) 飯高 隆
Se:〈地殻構造〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sf:〈リソスフェアの温度構造〉(日本地震学会) 山野 誠
Sg:〈地盤構造/震動〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sh:〈サイスモテクトニクス〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Si:〈地震計測/解析法〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sj:〈地震発生帯〉(日本地震学会) 小平 秀一
Sk:〈地震活動〉(日本地震学会) 小菅 正裕
Sl:〈活断層と古地震〉(日本地震学会) 小菅 正裕

Va:〈マグマ〉(日本火山学会) 中田 節也
Vb:〈火山活動〉(日本火山学会) 中田 節也

Xa:〈青少年セミナー〉(LOC) 島田允堯
Za:〈フューチャーセミナー〉(LOC) 島田允堯

§3 個人情報登録, 支払登録, 参加登録, 講演登録, 宿泊登録

上記の全ての登録は§1で書いた「合同大会ホームページ」にて行なって下さい.

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

登録内容は以下のとおりです:

1. 個人情報登録 (個人情報 ID 番号 取得)
2. 支払登録
3. 参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

●個人情報登録と個人情報 ID 番号

＊昨年度個人情報登録をされた方:

ID番号は今年度も有効ですので再登録は必要ありません。

所属や身分が変わった方は「合同大会ホームページ」において個人情報変更を必ず行って下さい。ご自分の ID 番号やパスワードを忘れた方は「合同大会ホームページ」の「各登録方法について」にアクセスして問い合わせすることができます。

＊昨年度個人情報登録されなかった方(共著者を含む):

まずは

個人情報登録

を行なっていただき,

個人情報 ID 番号

を取得して下さい. 登録された個人情報は, 個人情報 ID 番号によって参照され, 参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録, 支払登録 に利用されます. この際, 講演者だけでなく共著者も個人情報 ID 番号の登録が必要です. 共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は, 予稿集に共著者名が載らないことになりますのでご注意下さい. 個人情報登録後は, 著者リストには個人情報 ID 番号を入力するだけで OK です. 共著者がすでに個人情報登録を済ませている場合は, ID 番号を「合同大会ホームページ」にて検索できます。

個人情報登録のために必要な情報としては以下を予定しています:

氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に
所属学会 (複数選択式)
所属機関名 (漢字, カタカナ, 英語)
所属機関名略称 (漢字, 英語) (表示用)
所属機関住所 (漢字, 英語)
身分 (学生, 一般 選択式)
　学生証番号 (学生の場合) (学生確認用)
　一般の場合タイトル (教授, 助教授, 助手, 等)
TEL, FAX, E-mail

これらのデータは, 次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です.

●支払登録

「合同大会ホームページ」をご覧下さい.

●参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

詳細は§1に書いた「合同大会ホームページ」

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

をご覧下さい. 必要な情報は１９９９年大会とほぼ同じです. 予稿集原稿は原則として, 通常テキスト形式のみとします. 図については, 図処理用追加料金１，０００円で受け付ける予定です.

●プログラム編集作業

現段階では仕様は未定です. 各セッションのセッションマスター1 名 (提案者, 連絡先, コンビーナ等のうちの 1 人) が, プログラム編集用のホームページにて作業を行ないます.

§4 投稿費および参加費

クレジットカード払いまたは郵便振り込みが可能です.

§4. 1 予稿集原稿登録料

受付日時

～2月 4日 (金) 午後5時	１，０００円
～2月２５日 (金) 午後5時	１，５００円
～3月 1日 (水) 午後5時	２，０００円
～3月 2日 (木) 午後5時	３，０００円
～3月 3日 (金) 午後5時	５，０００円

予稿集原稿に図を入れた場合の, 図処理用追加料金は１，０００円です.

§4. 2 参加費

事前登録：4月14日（金）午後5時まで
一般　6，000円
学生　3，000円
当日登録：大会期間中の会場の総合受付にて．現金払いのみ．
(大会当日は午前8時30分～午後4時の予定)
一般　9，000円
学生　6，000円＊
(学生の当日登録は，ホームページ上にある学生証明書に指導教官の印と必要事項を記入したものをその場で提出した場合のみ，認められます．無給の研究生も学生料金で受け付けますので、証明書を提出して下さい．)

予稿集原稿登録料と参加費は（センター宿泊の場合は宿泊費も）一括請求されます．クレジットカード払いの場合は登録したカードから自動的に引き落とされ，郵便振り込みの場合は4月14日以降に振り込み用紙が郵送されます．郵便振り込み期限は5月31日（水）です。

§4．3　取消手数料

●振込後，参加をとりけされても予稿集原稿登録料と参加費の返金はできませんので，あらかじめご了承ください．また，振込前に取り消される，または当日会場にこなかった場合，予稿集原稿登録に関しては大会後，請求書を送りますので必ずお支払いください．

●宿泊についてのみ，以下の取消手数料となっています。
2000年6月　9日（金）まで：無料
2000年6月10日（土）～15日（木）：1，000円
2000年6月16日（金）以降：全額（返金しない）

§5　青少年総合センターへの宿泊

大会会場の青少年総合センター附属の宿舎の宿泊予約の締め切りは4月14日です．但し，確保しました部屋数には限りがありますので，申し込み数が定員を超えた場合にはその前に締め切ることもあります．宿泊予約は以下のホームページ上でのみ行っており，郵便，FAX等ではできません．

http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2000/

宿泊は，合同大会のみ参加される方向けのAコースと合同大会とWPGMの両方に参加される方向けのBコースの2つのコースがあります．Aコースは6月25日から28日朝までの3泊一括のみ，Bコースは6月25日から30日朝までの5泊一括のみを受け付けます．チェックインはいずれのコースも6月25日にセンター棟103号室（当日の大会受付と同じ部屋）で午後5時から午後9時までに行ってください．午後9時以降のチェックインはできませんのでご注意ください．

部屋はすべて個室ですが，ビジネスホテルタイプ（バス・トイレ付き）とユースホステルタイプ（バス・トイレ共同でベッドメーキングは利用者が行う）の2種類があります．料金は以下の通りです．

Aコース
ビジネスホテルタイプ（朝食なし）　14，500円
ビジネスホテルタイプ（朝食付き）　16，000円
ユースホステルタイプ（朝食なし）　8，500円
ユースホステルタイプ（朝食付き）　10，000円

Bコース
ビジネスホテルタイプ（朝食なし）　23，800円
ビジネスホテルタイプ（朝食付き）　26，310円
ユースホステルタイプ（朝食なし）　13，660円
ユースホステルタイプ（朝食付き）　16，190円

＊上記宿泊料金は，合同学会九大LOCが担当する宿泊受付け分の料金です．引続き開催されるWPGM期間中のみに宿泊される方には，WPGM実行委員会が別途宿泊プランを用意する予定です．なお，合同大会とWPGMでは宿泊受付けに関わる諸経費等の違いにより宿泊料金が異なるかもしれませんので，ご了承下さい．

§6　大会組織委員会からのお知らせ

§6．1　電子化の継承および合同大会参加費・投稿料について

1999年の合同大会では，北大LOCの大変なご尽力により，今後どの機関がLOCを引き受けても，電子化による合同大会参加費・投稿ができる仕組みを目指した構築がなされました．今年度もこの方式を継承しました．機関によっては設備の整合性や操作入力量の点で，皆様に不自由やご迷惑をお掛けしたり，戸惑いを与えることも多々あることと思われますが，今後の合同大会の円滑な運営のために，皆様のご理解とご協力をお願い致します．

今回の大会でも，締切間際の事務量の集中を避けるために予稿集原稿登録料と参加費の傾斜方式を採用することにしましたが，この傾斜は前回と同様にきつくなっています．参加費の値上げを1000円しましたが、今年度も従来どおり学生会員の登録費は安くしています．学生かどうかの同定のために，学生にとっては手続きが少し増えていますが，合同学会の主旨をご理解いただき，ご協力をお願い致します．

§6．2　合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付けは、以下の時間に開設する予定です。

大会前日
24日（土）　受付デスクは開かない

大会期間中の受付
25日（日）　AM 8:30～PM 4:00 センター棟　103号室
26日（月）　AM 8:30～PM 1:00 センター棟　103号室
　　PM 1:00～PM 4:00 センター棟　107号室
27日（火）　AM 8:30～PM 4:00 センター棟　107号室
28日（水）　AM 8:30～PM 4:00 センター棟　107号室

宿泊施設のチェックイン
25日（日）　PM 5:00～PM 9:00　センター棟　103号室

§6．3　懇親会場

ポスター会場近くのレセプションホールに最終日を除く毎夕，コーヒーなどを飲みながら議論・歓談できる空間を設ける予定で

す.

§6．4　展示申請

個人・企業などによる機器・書籍などの展示を希望される方は，「地球惑星科学関連の学術刊行物・最新機器展示会」の形で計画しております。詳細は、後日ホームページ上に案内掲示予定ですが、次の項目を文書に明記して，３月末までに申請して下さい.

（1）貴社名および所在地
（2）担当の方の所属部署，お名前，電話，Fax, E-mail 等
（3）展示内容、必要スペース等

(宛先)
〒855-0843 長崎県島原市新山 2-5643-29
九州大学 大学院理学研究科 島原地震火山観測所内
合同大会組織委員　企業展示担当（松島　健）
Tel. 0957-62-6621 Fax. 0957-63-0225
E-mail. mat@sevo. kyushu-u. ac. jp

§6．5　合同大会会場における会合申込みの募集

合同大会会期中に会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みを，引き続いて受け付けております．申し込みは以下の５項目を明記の上，４月末日までに九大ＬＯＣ会場係(loc2000-service@geo. kyushu-u. ac. jp)までメールにてお願いいたします. WWW上では申し込めません.

1) 会合名称
2) 申込み責任者とそのメイルアドレス
3) 希望する部屋の大きさ（下表参考）
4) 希望する時間（開始・終了時刻）
5) 食事の希望 or 不要

今回は，原則的にすべての会合から会場費を徴収することなりましたのでご留意下さい. 会場費については下に示した通りです. 会場費の徴収は，代々木センターの部屋使用料が決して安くはないこと，当日全く使用しない部屋についてはキャンセルすることによってセンターに支払う会場費を抑えていることを踏まえて，会合主催者の受益者負担として請求するという趣旨に基づくものです.

また今回はＷＰＧＭと平行開催のため部屋数が限定されており，申し込みをされても必ずしも希望に沿えない場合があること（特に大人数の部屋や食事可能な部屋を希望される場合）をご了解いただき，早めに申し込みいただくようお願いいたします.

徴収する会場費の料金（１コマ当たり）は以下の通りです.

定員 150 人を越える	¥10000	
定員 150 人まで	¥ 7000	
定員 80 人	¥ 4000	
定員 40 人	¥ 2000	
定員 20 人	¥ 1000	
定員 80 人（食事可能）	¥16000	（部屋代のみ）
定員 20 人（食事可能）	¥ 4000	（部屋代のみ）

部屋の有効利用のために２時間までを１コマの単位とします．また定員は部屋にある椅子の数です．会合申し込みについてご不明の点がございましたら，遠慮なく会場係までお問い合わせ下さい.

§6．6　2000 年合同大会組織委員会の構成と連絡先

大会委員長：　柳　哮　> yanagi@geo. kyushu-u. ac. jp
実行委員長：　湯元清文> yumoto@geo. kyushu-u. ac. jp
企画委員長：　島田允堯> nshimada@geo. kyushu-u. ac. jp
企画委員：　山内敬明> nyama@geo. kyushu-u. ac. jp
　　並木則行> nori@geo. kyushu-u. ac. jp
広報委員長：　鈴木貞臣> suzuki@geo. kyushu-u. ac. jp
広報委員：　川瀬　博> kawastar@mbox. nc. kyushu-u. ac. jp
　　松島　健> mat@sevo. kyushu-u. ac. jp
印刷物担当：　中村 智樹 <tomoki@geo. kyushu-u. ac. jp>,
　　北島 富美雄 <kitajima@geo. kyushu-u. ac. jp>,
情報化委員長：関谷　実> sekiya@geo. kyushu-u. ac. jp
情報化委員：　吉岡祥一> yoshioka@geo. kyushu-u. ac. jp
　　三好勉信> miyoshi@rossby. geo. kyushu-u. ac. jp
　　中島健介>
　　ken-suke@deepconv. geo. kyushu-u. ac. jp
経理委員長：　中田正夫> mnakada@geo. kyushu-u. ac. jp
経理委員：　池田　剛> ikeda@geo. kyushu-u. ac. jp
大会幹事長：　飯島　健> iijima@geo. kyushu-u. ac. jp
受付担当：　佐野弘好> sano@geo. kyushu-u. ac. jp
会場担当：　石橋純一郎> ishi@geo. kyushu-u. ac. jp
ポスター担当：山内敬明> nyama@geo. kyushu-u. ac. jp
機材担当：　宮本知治>miyamoto@geo. kyushu-u. ac. jp
アルバイト担当：
　　守田治> morita@weather. geo. kyushu-u. ac. jp
宿泊担当：　竹中博士> takenaka@geo. kyushu-u. ac. jp
　　亀　伸樹> kame@geo. kyushu-u. ac. jp
保育室担当：　並木則行> nori@geo. kyushu-u. ac. jp
企業展示担当：松島　健>mat@sevo. kyushu-u. ac. jp
プログラム委員長：
　　村江達士> murae@geo. kyushu-u. ac. jp
ＬＯＣプログラム委員：
　　高岡宣雄> takaoka@geo. kyushu-u. ac. jp
　　伊藤久徳> itoh@weather. geo. kyushu-u. ac. jp
　　河野英昭> hkawano@geo. kyushu-u. ac. jp
学会選出プログラム委員
★地球化学会
　中井俊一　E-mail: snakai@eri. u-tokyo. ac. jp
　石橋純一郎　E-mail: ishi@geo. kyushu-u. ac. jp
★測地学会
　花田英夫　E-mail: hanada@miz. nao. ac. jp
　田部井隆雄　E-mail: tabei@cc. kochi-u. ac. jp
★地球電磁気・地球惑星圏学会
　早川　基　E-mail: ayakawa@stp. isas. ac. jp
　綱川　秀夫　E-mail: htsuna@geo. titech. ac. jp
★地質学会

佐野弘好　E-mail: sano@geo.kyushu-u.ac.jp
坂井　卓　E-mail: taku@geo.kyushu-u.ac.jp
★岩鉱学会
有馬　眞　E-mail: arima@ed.ynu.ac.jp
池田　剛　E-mail: ikeda@geo.kyushu-u.ac.jp
★鉱物学会
藤野清志　E-mail: fujino@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
松井 正典　E-mail: matsui@geo.kyushu-u.ac.jp
★惑星科学会
倉本圭　E-mail: keikei@neko.lowtem.hokudai.ac.jp
中村智樹　E-mail: tomoki@geo.kyushu-u.ac.jp>
★第四紀学会
中村　俊夫　E-mail: g44466a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
鹿島　薫　E-mail: kashima@geo.kyushu-u.ac.jp
★地震学会
竹中博士　E-mail: takenaka@geo.kyushu-u.ac.jp
鷺谷　威　E-mail: sagiya@gsi-mc.go.jp
★火山学会
中田節也　E-mail: nakada@eri.u-tokyo.ac.jp
清水　洋　E-mail: shimizu@sevo.kyushu-u.ac.jp
★資源地質学会
今井　亮　E-mail: akira@tsunami.geol.s.u-tokyo.ac.jp
本村慶信　E-mail: ymoto@geo.kyushu-u.ac.jp

●お問い合わせ先
■大会全般・大会プログラムなど内容に関して
地球惑星科学関連学会2000年合同大会　組織委員会
〒812－8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻内
E-mail: loc2000-question@denji102.geo.kyushu-u.ac.jp
Fax.092-642-2685
■参加登録・予稿集原稿登録など実務作業に関して
地球惑星科学関連学会2000年合同大会　登録事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目4番9号
サンケイビル本館7階　株式会社ジェイコム内
E-mail: earth@jtbcom.co.jp
Fax.06-6456-4105
(お問い合わせ受付時間)
月曜日～金曜日　9:30～18:00(土日・祝日を除く)
時間外にいただきましたお問い合わせにつきましては返答が次営業日になりますのでご注意ください。

地球惑星科学関連学会連絡会第18回会合議事録

日　時：1999年（平成11年）6月10日（木）18:10-20:30
場　所：国立オリンピック記念青少年センター　C309号室
出席者：35名
資源地質学会；森下　祐一
地球電磁気・地球惑星圏学会；綱川　秀夫，早川　基，小野　高幸，岩上　直幹
日本海洋学会；吉田　次郎
日本火山学会；津久井　雅志
日本岩石鉱物鉱床学会；大谷　栄治，吉田　武義
日本気象学会；住　明正
日本鉱物学会；村上　隆，土山　明
日本地震学会；飯高　隆，島崎　邦彦，小菅　正裕
日本測地学会；加藤　照之，小菅　俊宏
日本地球化学会；篠原　宏志（欠席）
日本地質学会；公文　富士夫
日本惑星科学会；阿部　豊，田近　英一
日本第四紀学会；中村　俊夫
日本水文科学会；鈴木　裕一
１９９９年合同大会実行委員会；島村　英紀，宇井　忠英，渡部　重十，林　祥介，山本　哲生
２０００年合同大会実行委員会；柳　哮，湯元清文，村江　達士，島田　允堯，関谷　実
２０００年WPGMプログラム委員長；佐竹　健治
地球惑星科学関連学会合同大会運営事務局長；本蔵　義守
地球惑星科学関連学会連絡会幹事；坪井　誠司

議題
I. 承認事項
1．前回の議事録（案）確認
原案どおり承認した．

II. 報告事項
1．各学会からの報告．
各学会の今後の予定については以下の通り．
惑星科学会
1999年度秋季講演会　11月13日～15日　仙台
鉱物学会
1999年 9月23日～9月26日　茨城大学
岩石鉱物鉱床学会と鉱物学会を同時に開催する。
岩鉱学会（鉱物学会と同時開催）
1999年 9月23日～9月26日　茨城大学
測地学会
1999年11月9日～11月11日岐阜県根尾村
GPS国際シンポジウム 1999年10月18日～22日
つくば国際会議場
主催：測地学会，地震学会，火山学会他
地球電磁気・地球惑星圏学会
1999年11月9日～11月12日東北大
火山学会

こもダイラ付ミ

1999年10月9〜11日講演会（神戸大学），
11-12日現地討論会（神鍋火山）の予定
2000年秋は茨城大の予定
2001年秋は鹿児島の予定

地球化学会
1999年9月29-10月1日（地質調査所）

地震学会
1999年11月17日〜11月19日　仙台市

地質学会
1999年　年会：　1999年10月9日〜11日　名古屋
2000年　総会：　2000年春；　つくば（予定）
2000年　年会：　2000年9月28日〜10月1日　島根大学

気象学会
1999年春季大会　4月26日〜28日　東京

日本海洋学会
1999年度秋季大会 1999年9月16日〜20日
北海道大学水産学部（函館）
2000年度春季大会 2000年3月27日〜31日
東京水産大学（東京）

資源地質学会
1999年度年会6月16日〜18日　東京
資源地質学会シンポジウム
「海底熱水活動研究の現状とその鉱床探査への応用」
1999年6月17日午後　東京

水文科学会
1999年6月頃（場所未定）

第四紀学会
1999年8月23日〜25日　京都大学

III. その他の報告及び審議事項

1) 1999年度合同大会について（渡部）

北大LOCから1999年合同大会の実施状況について報告があった．

(a)事務局（渡部）

投稿した人数は1593人，事前登録は一般が910人，学生が531人で計1441人である．当日登録は10日現在で一般555人，学生252人で全体では2248人である．Webで受付をしたことにより当日の受付は楽になった．現在の見積もりでは予算をオーバーする可能性がある．以上の報告に対し，特に，登録料を払わない参加者や，講演者がいるので，それらに対する処置をより厳格にすべきではないかとの意見があった．

2) WPGM2000及び2000年合同大会について　（湯元，佐竹）

現在合意されている日程は以下の通り．

2000年合同大会
日程：2000年6月25日（日）〜28日（水）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

2000年WPGM
日程：2000年6月27日（火）〜30日（金）
場所：同上

このうち，27，28日は会場は半分ずつとする．

a)合同大会について（湯元）

九州大学でLOCを立ち上げた．北大LOCから九大LOCへの引継を11日15:00より行う．登録料については，WPGMを続けて開催することにより参加者の減少が見込まれるので値上げを考慮中であり，次回の連絡会で提案したい．

b)WPGMについて（佐竹）

7日にプログラム委員と実行委員の会合を持ち，今後の準備の進め方について確認した．組織委員長は入倉氏となった．実行委員長については連絡会で選出してほしい．合同大会期間中にAGU側と非公式な会合を持ち，日本側との分担について議論した．その結果，財政的負担はすべてAGUが引き受け，日本側の実行委員会は会場の手配やsocial programなどについて引き受けることになった．プログラム委員会では今後セッションの募集を行い，合同大会とのセッションの分担について各学会に協力をお願いすることになる．

以上の報告に基づき議論した．実行委員長については今後の連絡会体制とも関連するので次の議題で議論することになった．

3)2001年以降の合同大会及び連絡会事務局の体制について

前回の連絡会で事務局長，幹事，前幹事より提案した会則（案）について各学会での議論の結果をまとめた．その結果，提案された会則（案）を承認する学会が過半数を占めたが，慎重な対応を求める意見も出たので，現在の運営要綱の第7条に基づいた形で幹事会を作り、そこで、2001年以降の合同大会の運営体制と、連絡会の運営体制としての会則のたたき台を作ることになった。幹事会のメンバーは議論の結果以下の通りになった。

会長：　大谷　栄治
庶務：　綱川　秀夫
渉外担当：吉田　武義
会計：　津久井　雅志
ニュースレター担当：原　辰彦
次期合同大会LOC：湯元　清文
オブザーバー：林　祥介、渡部重十、加藤照之、坪井誠司

WPGM実行委員長については、改めて議論したが、結論がでなかったので、再度組織委員長に選考を依頼することとなった。

4) 次回連絡会は，次回合同大会会期中に開催する．日程は9月29日13:00〜　国立青少年センター（代々木）

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース　第19号
1999年12月11日発行

発行：　地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会会長　大谷栄治
編集：　地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会ニュースレター担当　原辰彦